

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

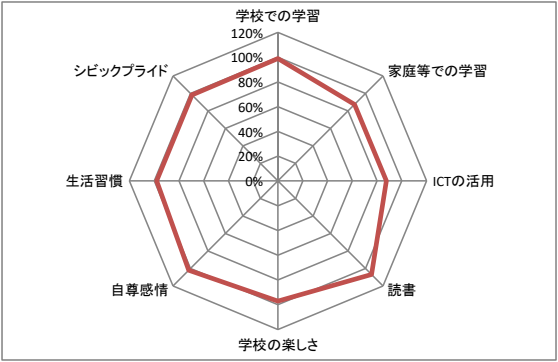
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能に関する問題の正答率は全国平均と同程度である。思考力、判断力、表現力等に関する問題が全国平均を下回っている。また、記述式の問題では、無解答率が全国平均よりも高くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	原因と結果など情報の関係について読み取る問題、日常よく使われる敬語についての問題の正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	文章や話の内容を捉え、自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に、知識及び技能に関する問題の正答率は全国平均と同程度である。データの活用領域が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	乗法の計算問題や図形の意味や性質についての問題の正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	加法と乗法の混合した計算をしたり、分配法則を用いたりする問題、二次元の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」と考えている児童が多い。しかし、授業中のICT機器の活用が不十分であった。目的や活動内容に合わせ、タブレット等を活用した授業を推進していく必要がある。
「友達関係に満足している」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童の割合が高い。友達とお互いを認め合い、よさを伝え合うことで児童の自尊感情が高まっている。
学校の授業時間以外でも読書をする児童の割合が全国平均よりも高い。しかし、学校以外での学習時間が1時間以上と答えた児童が全国平均よりも低くなっている。継続的な家庭への啓発、児童への支援が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が考えを深め・広げ・課題解決につなげるような学習ができるよう、学校全体で継続して取り組んでいく。また、各学年の発達段階に応じ、タブレットを活用した授業を推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「がんばろう家庭学習カード」「自学掲示板」「自学ノートコンテスト」等の取組を継続して行い、児童の家庭学習への意欲を高めていく。また、長期休業期間中も図書の貸出を行い、児童がより本に親しむことができるように努める。